



屋上緑化がもたらす驚きの省エネルギー・省資源効果

都市部のヒートアイランド現象が深刻化するなか、屋上緑化は省エネルギー・省資源効果が期待できるものです。その効果は、建物の運用コスト削減だけでなく、都市全体の環境改善にも大きく貢献します。

屋上緑化の最も直接的な効果は、建物の冷暖房負荷の大幅な削減です。夏場、コンクリートやアスファルトの屋上は太陽熱を吸収し、表面温度が60℃以上に達することもあります。この熱が建物内部に伝わることで室温が上昇し、エアコンの稼働量が増大します。しかし、屋上を緑化することで、植物が日射を効果的に遮断し、蒸散作用によって熱を吸収・放散します。

これにより、緑化された屋上の表面温度は真夏でも30℃台に抑えられることが多く、未緑化屋上と比較して30℃以上の温度差が生じることも珍しくありません。

この顕著な温度差は、建物への熱流入量を大きく減らし、冷房エネルギーの消費量を約10％、20％削減できると言われています。屋上緑化は建物のエネルギー消費量を平均して5％～10％削減する潜在能力を秘めています。

さらに、屋上緑化は雨水流出抑制にも重要な役割を果たします。植物と土壌が雨水を一時的に貯留・吸収するため、下水道への急激な排水量を抑制し、雨水処理施設への負担を軽減します。

これは、貯水槽の設置や下水管の増設といったインフラ整備にかかる資源（建設材料や費用）の節約にも繋がります。持続可能な都市運営に貢献し直接的なエネルギー削減以外の省資源効果も期待できます。

屋上緑化は、単に運用コストを削減するだけでなく、都市の環境負荷を低減し、より快適で持続可能な社会を築くための、重要な投資と言えるでしょう。



スタッフ紹介

高田翔太（岡山工場 製造部）

岡山工場製造部で働いております高田と申します。

前職は流れてくる木材板の検品作業や、検品した木材板を束ねる機械のオペレーターをしておりました。

大日化成では主に硬化剤関係やプラネタリー製品関係の製造をしています。はじめは自分で原料を投入し製造を行う作業の想像もつかず、ぎこちないメモを取っております。

ですが、ご指導くださる先輩方に支えられ、少しずつではありますが仕事を任せていただけるようになり、嬉しく思うと同時に責任を持つて努めていかなければならないと感じました。

私は大日化成に入社して二年半が経ちました。これから社内の方々と交流を深め、会社の一員として成長していけるよう努めてまいります。

ここで私の趣味の話をさせていただきます。

私はバイク・車のカスタムやDIYなどが趣味です。バイク・車のカスタムではFRPというガラス繊維を使用し、エアロパーツなどを初心者ながら制作しています。



DIYでは木材を使用してログベンチや工具棚などを初心者なりに制作しています。

インドアな趣味ではありますが、趣味で得た知識や経験を活かし、会社の扉の閉まりが悪くなった際の修理や、事務所の窓に遮光フィルムを貼るなど、微力ながら趣味でやっていたことが役に立つたことを嬉しく思います。

まだまだ製造部員として半人前ですが、努力してまいりますので、これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

入社してから経験振り返ると、日々の積み重ねの中で成長を実感できる瞬間が数多くあります。

これからも現場で学んだことを大切にしつつ、一歩ずつ前進し、会社に貢献できる人材を目指してまいります。

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代) / FAX：06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代) / FAX：03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



次号も
お楽しみに

URL：https://dainichikasei.cp.jp

Vol.70

映画で学ぶ 環境問題

スペース スウィーパーズ
SPACE SWEEPERS



監督：チョ・ソンヒ
脚本：チョ・ソンヒ モカン
出演：ソン・ジュンギ
キム・テリ
配給：メリークリスマス
Netflix
上映：136分
公開：2021年

本作は2092年の宇宙を舞台に、私たちの壮大な未来像を鮮烈に描き出します。現代社会が抱える環境問題や社会格差、テクノロジとの共存といったテーマを深く掘り下げ、私たちに未来からの重要なメッセージを提示しているのです。

物語は、環境汚染と資源枯渇により人類が居住不能となった地球から始まります。選ばれた富裕層は高度なユートピアで暮らし、残された人々は

荒廃した地球で辛うじて生き延びるという、厳しい格差社会が築かれています。

主人公たちは、宇宙に漂う膨大な量のスペースデブリ（宇宙ゴミ）を回収し、生計を立てるサルベージ船の乗組員たちです。彼らは借金返済に迫られる中、ある日、危険な人間型ロボット、ドロシーを発見します。ドロシーを巡る陰謀に巻き込まれる中で、クルーたちは、自分たちの置かれた状況や未来の地球の運命に関わる大きな真実と対峙し、やがて人類の未来を

かけた戦いに挑んでいきます。

作品を観ての感想は、未来が私たちの「今」の選択と行動の積み重ねで形成されるといふ、極めてシンプルながらも重い真実です。映画で描かれる荒廃した地球や格差に満ちた宇宙社会は、遠いSFの物語ではありません。そこには、現在の私たちが直面している問題が、極端な形で投影されています。

地球が一度破壊されれば、取り戻すことがいかに困難かを示し、現在の気候変動や資源枯渇の問題を放置すればどうなるかを明確に示唆しています。

ユートピアと荒廃した地球という二極化は、現代社会の貧富の差や、環境問題の負担が弱者に押し付けられる構図を象徴します。持続可能性は、誰もが取り残されない社会の実現なしには語れません。

宇宙のゴミ（スペースデブリ）が増え続ければ、やがて私たちの未来をも脅かす。そんな現実を、彼らの姿が象徴しているようでした。

「スペース・スウィーパーズ」のリアルな未来描写は、私たちに行動の遅れがもたらす結末について改めて気付かせてくれます。そして、今から私たち一人一人が具体的な行動を

起こすことの重要性を強く感じさせてくれます。

今後は、日々のゴミ削減、リサイクル意識の徹底、省エネルギー行動など、個人レベルでの小さな積み重ねが不可欠です。環境や社会に配慮した製品を選び、使い捨てを減らす、企業にも自然や人を大切にするビジネスへの転換を促すべきです。環境問題や社会格差から目を背けず、積極的な情報を集め、議論に参加することで、一人ひとりの意識が高まり、やがて社会全体の変化へとつながっていくます。

本作では、絶望的な状況下でも、主人公たちが互いを信頼し、諦めずに未来を切り開こうとする姿を通して、私たちに希望と連帯のメッセージを送っています。

この映画は、私たちが現在直面している問題が、いかに未来に直結しているかを鮮やかに示してくれています。未来の世代に、住みよい地球と公平な社会を残すため、「今、行動すること」。これこそが、映画から私たちが受け取った、最も重要なミッションだと感じています。